

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人緑会	代表者	圓山 寛人	法人・事業所の特徴	法人の理念「仁愛・信頼・貢献」を基に利用者個々の「思い」や生活ペース、家族、地域との繋がりを大切にした支援に取り組んでいる。複数の看護職員の配置に加え、母体(医療法人や社会福祉法人)の充実したバックアップ体制があり、利用者・家族の安心に繋がっている。
事業所名	たかしなの里	管理者	白山 千亜希		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1 人	人	3 人	人	1 人	人	人	15 人	人	人

項 目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	委員会や研修で知識・技術の向上を図ったり、ミーティングやコミュニケーションアプリで情報共有することで、お互いに意見の言いやすい環境を作り職員全員で取り組みや結果について評価をする。	各項目で改善計画の実行できるようにする意識した取り組みができていると感じられた。 この自己評価に取り組む過程でそれぞれの職員の意識も少し変化を感じる。 どの利用者も事業所で安心して安全に、そして気持ちよく過ごせるようにと取り組みが計画され、それが実現できるように努力されている。	事業所自己評価には概ね全職員で取り組んだ事が確認できた。 改善計画に対して、スタッフ全員で具体的な取り組みが行われているかどうかの評価が難しい。 事業所振り返りシートの評価結果で、「あまりできていない」と自己評価している職員数が多いと感じた。 「できている点」「できていない点」をふまえた改善計画になっている。	身体的な健康、精神的な健康、社会的に良好な状態を実現するため①もっと食べる ② もっと話す ③もっと笑うような取り組みを行う。 個別支援・レクリエーション技術の向上。 満足度調査を実施し、ニーズを明確化させる。 引き続き、全職員が参加できるような事業所内研修を継続する。併せて研修で学んだことを実践できているのか評価を行い、事業所全体の質の向上に努める。
B. 事業所のしつらえ・環境	ユマニチュードによるケアに取り組んで、居心地がよく安心して過ごしていただく環境を作る。 プランターや施設内外の清掃できれいな環境作りに努める。	掃除が行き届いており清潔感がある。壁面装飾等、季節を感じるように工夫している。 昼食メニューの写真を拝見したが、量も豊富でこれだけの量を皆さん食べることができるのは美味しいのでしょうか。	コミュニケーションアプリを通して、季節の行事やレクリエーションなどの楽しそうに過ごしている様子が分かった。 日中、事業所の玄関にカギをかけることの適否は、身体拘束と不審者対策との兼ね合いが難しい。	利用される方が安心・安全で楽しく生活できるように、全職員が接遇に気を配る。 接遇研修を行い、定期的に自己評価を行う事で言葉遣いや態度など、日頃のケアを見直す。
C. 事業所と地域のかかわり	コミュニケーションアプリやホームページ、広報誌を通じて施設での取り組みを情報発信していく。 地域で行事やイベントがあれば積極的に見学や参加をする。	事業所をまだ利用していない方には、ずっと入所できる施設だと思い違いしている方がいるかもしれない。 地域包括支援センターとの関わりが強く、互いに協力しながら相談支援している。	カフェたかしなの送迎や高階まつりへの出店は継続してほしい。 カフェたかしな等、たかしな地区活性化協議会の行事は参加人数が多いと賑やかなので、どんどん参加してほしい。	地域に向けて事業所の紹介や、職員と利用者が一緒に地域の行事やイベントに参加し、地域との交流・繋がりを深める。 利用者・家族・運営推進会議構成員等を招いた、たかしなの里交流会・意見交換会を開催する。 登録者以外の地域住民を事業所へ招くような活動を再開していく。

D. 地域に出向いて 本人の暮らしを 支える取組み	ご家族や地域の方々と連携を密にして安心して今まで通りの生活が出来るよう支援する。 地域の行事や四季折々のドライブなど積極的に参加したり見学をする。	コミュニティーセンター主催のイベントに、利用者と共に参加できていた。 西三階町秋祭りのビデオ上映会を行っていた。 地元で有名な食品メーカーへ見学に行き、他県の小学生と交流を図っていた。 期日前投票に出向いていた。 地域包括支援センターとの関わりが強く、互いに協力しながら相談支援している。	地域に出向くと心が外に向かって開き、利用者の生活がより豊かになると思う。今年度のような取り組みの継続を。 期日前投票については、投票箱をバスに載せた「移動期日前投票所」を活用する方法もある。	引き続き、コミュニティーセンター主催のイベントに、利用者と共に参加する。 業務の見直しや職種での役割分担の明確化を行い、利用中以外の様子に目を向け、利用者の情報収集と共有化を図る。
E. 運営推進会議を 活かした取組み	ご利用者・ご家族が安心してご利用いただけるよう満足度調査の結果や事例などを会議で検討し改善していく。 地域へ発信できる会議の場としていく。	2か月毎に、スライドショーで画像とともに利用者状況、行事報告、事故報告等の報告を受け、地域に開かれたサービス提供ができています。 七尾市の職員から、福祉や介護保険等の情報を聞くことができた。 個人情報に配慮し、個別で地域の心配な方等の事例相談もできた。 ご利用者の家族、地域住民の代表者、七尾市の職員で協議・意見交換を行うことで、サービスの質の確保が図れている。	運営推進会議の開催は隔月の恒例開催となり、情報共有も少しずつ多くなってきました。 運営推進会議時、たかしなの里の利用状況や運営状況を報告している。 運営推進会議の提案や意見は全職員へ情報共有し、今後活かせるよう改善に繋げている。	事業所の活動や改善進捗状況などの報告・説明を行い、委員との交流を深め、地域で暮らしを支える仕組み作りに貢献する。相談を受けた事例などを報告する。 取り組みの透明性は引き続きわかりやすいよう報告し、相談することで地域力アップにつなげる。 地域の気になる課題があればいつでも共有できるような仕組みを作る。
F. 事業所の 防災・災害対策	災害時には施設で出来ることを運営推進会議で検討していく。 事業所での取り組みを地域の方にもっと知っていただく。	発煙筒や水消火器、使用期限を過ぎた消火器を使った実践的な訓練が行われていた。 地域の防災訓練は事業所単体で行われていた。 地震や風水害などの自然災害や感染症が発生した場合においても、介護サービスを安定的・継続的に提供することができるよう、業務継続計画(BCP)の策定や研修・訓練が行われている。	今後も大地震が続くという情報もあり、引き続き警戒が必要。地震は突然訪れるため、反射的な行動ができるよう訓練は必要。 水害時には町内河川に氾濫の可能性があるため、孤立しないように備えはしっかり行う必要がある。 新型コロナウイルス感染症が事業所内でまん延した際は、町会長にも知らせてほしい。	BCP(事業継続計画)研修会等で全職員の意識統一を行う。